



各 位

会 社 名 株 式 会 社 シ ー マ  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 白 石 幸 栄  
 ( J A S D A Q ・ コ ー ド 7 6 3 8 )  
 問 合 せ 先 執 行 役 員 総 務 部 長 松 橋 英 一  
 電 話 0 3 - 3 5 6 7 - 8 0 9 8

## 平成 22 年 3 月 期 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 11 月 9 日 付 当 社 「特 別 利 益 の 発 生 お よ び 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ」 に て 公 表 し  
 ま した 平 成 22 年 3 月 期 (平 成 21 年 4 月 1 日 ~ 平 成 22 年 3 月 31 日) の 業 績 予 想 (連 結 ・ 個 別) を 下  
 記 の と お り 修 正 し ま した の で、お 知 ら せ し ま す。

### 記

#### 1. 業 績 予 想 の 修 正

##### (1) 平 成 22 年 3 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 等

###### ① 通 期 (平 成 21 年 4 月 1 日 ~ 平 成 22 年 3 月 31 日)

(単 位 : 百 万 円、円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	11,592	53	24	△48	△0.26
<b>今 回 修 正 予 想 (B)</b>	<b>11,451</b>	<b>249</b>	<b>224</b>	<b>48</b>	<b>0.26</b>
増 減 額 (B - A)	△140	196	199	96	—
増 減 率 (%)	△1.2	367.8	821.5	—	—
(ご 参 考) 前 期 (平 成 21 年 3 月 期) 実 績	12,045	730	700	377	2.05

(注) 記 載 金 額 は、百 万 円 未 満 を 切 り 捨 て て 表 示 し て い ま す。

##### (2) 平 成 22 年 3 月 期 個 別 業 績 予 想 の 修 正 等

###### ① 通 期 (平 成 21 年 4 月 1 日 ~ 平 成 22 年 3 月 31 日)

(単 位 : 百 万 円、円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	11,450	59	30	△77	△0.42
<b>今 回 修 正 予 想 (B)</b>	<b>11,310</b>	<b>258</b>	<b>233</b>	<b>19</b>	<b>0.10</b>
増 減 額 (B - A)	△139	199	202	96	—
増 減 率 (%)	△1.2	333.8	656.8	—	—
(ご 参 考) 前 期 (平 成 21 年 3 月 期) 実 績	11,710	742	712	370	2.01

(注) 記 載 金 額 は、百 万 円 未 満 を 切 り 捨 て て 表 示 し て い ま す。

## 2. 業績予想修正の理由

当連結会計年度（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）におけるわが国経済は、一昨年の世界金融危機の影響などによる景気後退以降、依然として厳しい状況が続きました。

景気の先行きについては、未だ失業率が高水準にあるなど、雇用情勢の一層の悪化懸念、海外景気の下振れ懸念、デフレの影響など、景気を下押しするリスクが存在することから、予断を許さない状況が続いています。

このような経済状況のもと、当社グループ（当社および連結子会社）の主力であるブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等）は、前述の景気後退による個人消費の低迷などが影響し、通期において売上高は伸び悩みました。

当社は、この厳しい状況下に早期に対応し、前期より全社で推進している集客増への取組みや、営業強化策の実施を推進するとともに、平成 21 年 9 月には、当社の営業力をさらに強化するため、将来を見据えた組織改革を実施し、収益基盤の強化、経費削減の徹底、業務改善の推進に全社で取り組みました。（「組織の一部改編および人事異動に関するお知らせ」（平成 21 年 9 月 15 日開示））

その結果、クリスマス商戦を含む第 3 四半期には、第 2 四半期末時点でマイナスであった利益も回復し、黒字化することができました。

また、第 4 四半期は、集客増のための営業施策を引き続き実施するとともに、すべての経費についての見直しを徹底するなど、全社で取り組みました。

以上の取組みにより、利益面において、平成 21 年 11 月 9 日付けで公表した通期業績予想（連結・個別）を上回る結果となったため、平成 22 年 3 月期の通期業績予想（連結、個別）を修正するものです。

なお、業績予想の修正に至る＜売上高＞と＜営業利益、経常利益および当期純利益＞での主な要因は、以下のとおりです。

### <売上高>

当社グループの主力であるブライダルジュエリー事業において、当社は、営業体制を強化し、営業強化策を実施したことなどにより、集客数は増加したものの、個人消費の悪化が顕在化したことから、売上高は伸び悩みました。四半期別売上高は、第 1 四半期が 25 億 73 百万円（前年同四半期比 1.4%減）、第 2 四半期が 29 億 45 百万円（同 4.2%減）、第 3 四半期が 28 億 13 百万円（同 6.6%減）、第 4 四半期が 29 億 77 百万円（同 1.1%減）となりました。

また、当社は、平成 21 年 11 月 5 日付けで「子会社の異動（株式譲渡）および業務提携に関するお知らせ」を公表しており、平成 21 年 11 月 10 日付けでウェディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当社保有全株式を、ブライダルプロデュースおよび、ブライダルプランナーの育成を営むアライヴァル株式会社の代表取締役である伊野部 博孝氏に譲渡したことにより、ウェディングプロデュース事業の約 7 ヶ月間の売上は、1 億 41 百万円（前期実績 3 億 36 百万円）となりました。

通期連結売上および、通期個別売上は、平成 21 年 11 月 9 日付けで公表した業績予想に対し、ともに 1.2%減と、ほぼ計画通り推移しました。

<営業利益、経常利益および当期純利益>

当連結会計年度において、当社は、通常のジュエリー販売に加え、付加価値サービスなどによる売上増、また仕入において売上原価を抑えることができたため、売上総利益が計画に対し増加しました。

また、当社は、全社的な経費削減の取組みを実施したことなどにより、連結営業利益 2 億 49 百万円（計画比 367.8%増）、個別営業利益 2 億 58 百万円（計画比 333.8%増）、連結経常利益 2 億 24 百万円（計画比 821.5%増）、個別経常利益 2 億 33 百万円（計画比 656.8%増）となり、営業利益、経常利益ともに、予想を大幅に上回る結果となりました。

当社は、第 1 四半期より退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更したことに伴う特別損失 67 百万円を計上しています。また、当第 4 四半期連結会計期間においては、当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」にもとづき、当連結会計年度に一部の店舗資産に対し、減損損失 69 百万円を計上しました。一方で、株式会社トゥインクルスターの当社保有全株式の売却により、連結では 52 百万円、個別では 15 百万円の売却益を特別利益として計上しました。

その結果、連結当期純利益は 48 百万円（計画は、▲48 百万円）、個別当期純利益は 19 百万円（計画は、▲77 百万円）となり、純利益においても、予想を大幅に上回りました。

なお、平成 22 年 3 月期の配当予想につきましては、平成 21 年 10 月 30 日に公表した内容からの変更はございません。

（注）平成 22 年 3 月期 決算短信は、平成 22 年 5 月 10 日（月）に発表する予定です。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものです。  
実際の業績は、今後さまざまな要因によって、予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上